

義太夫

義太夫協会々報
第6号

昭和50年1月25日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館 TEL(541)5471

めでたい曲、短い曲を

会長 吉川英史

わたしはFM東京という放送局で、「邦楽散歩道」という番組（金曜日の午後一時から）を担当していますが、それは別に、正月三日間の放送として、「新春邦楽」という祝賀番組の企画と解説を依頼されました。

ところが、「芳村伊十郎全集」というレコードから、十五分番組に入る曲を選んでくれとの注文に、ずいぶん苦心しました。長唄には、名前通り長い曲が多いし、この全集は「長唄五十番」とある通り、現行の長唄全部から選べないからです。

しかし、こんな時に、もしも義太夫で「新

春邦楽」を企画するとなると、もっとむずかしいのではないだろうか。義理人情で泣かせることを立前としている義太夫には、松竹梅・鶴亀・七福神・老松といったような目出たい曲がないのも当然です。

義太夫にも「式三番」というお祝儀物がないでもありませんが、いつもいつも「式三番」では能がなさすぎます。何かサワリの中から、目出たい内容のものを選ぶという手もありましょう。「壺坂」の切のような、めでたしめでたしで終っている所などは、使えないこともありません。しかし、前に出て来た悲劇的

な事件の印象が強烈で、あっさり目出たい気分になり難いことが多いでしょう。

義太夫の発展策にはいろいろあります。古典の作品の芸術的な価値を知らせるように努力するのが、正攻法かも知れません。しかし、現代の社会や現代の生活に密着した新作をどしどし作ることも必要だと思います。三分、五分、十分という短い曲が欲しいのです。目出たい時や、葬儀や追善に演奏する曲もたくさん作って欲しいのです。冠婚葬祭用の曲、実用曲の作曲を提唱します。歌詞のない三味線だけの曲も必要です。義太夫協会制定の実用曲で、協会の行事を飾ってみたいものです。劇場に行かねば、義太夫が聞けないというのは、ほかの音楽に負けるのではないのでしょうか。

目出たい曲などは過去のもので、科学の時代の現代に、そんなものは無意味だという人は、幸福駅から愛国駅、の乗車券が何千万枚も売れるという事実を、どう説明するのでしようか。動物が感じられない幸福感を、人間だけが感じられるのは、人間の特権であり、目出たく感じさせる演出は、人間の最高の演出だと、私は思います。



国語・音楽の学習に
資する、浄瑠璃の

学校巡演のすすめ

佐々木 明 郎

徳川三百年の鎖国の反動として、開国後の明治初年は所謂鹿鳴館時代、即ち欧化偏向、欧米万能の風潮の世となり、すべて舶来（輸入）は即上等なりとの考えから、国を挙げて伝統の学術・芸術・文物を軽視、或いは忘却するに至りました。

従って、明治初年に音楽教育の発足にあたり、伊沢修二氏の努力も実を結ばず、我が国の伝統芸能たる優れた邦楽は全く無視されま

した。それから約一世紀。その間、大正十二年に「江戸」は焼失し、昭和六年以来の戦争の結果、昭和二十年には「東京」も燃えて無くなり、経済成長とか開発という美名のもとに、植民地的東京を中心として日本中が偽の東京となり、日本人の中にエゴノミックアニマルが増えたことに気づいたときには、自国の伝統文化を尊重しない唯一の文明国？になり下がっていました。千載に悔を残す種が蒔かれてから百年後の今は、すでに何の手を打つすべも無いのでしょうか。

閑話休題、数年前から義太夫節を中心とする浄瑠璃の諸流を初め、邦楽に関心を抱く若人が年々増加しています。不思議なようです。原因が無いとは考えられません。義太夫界を初めとする伝統芸能各界の永年に亘る努力、昭和四十二年を第一回とする国立劇場「歌舞伎教室」、二年遅れて発足した「文楽教室」（共に、主として高校生を対象）の毎年の実施、社団法人義太夫協会の学校巡演、杉昌郎氏を中心とする若い人々の「集団日本の音」による邦楽の小中学校巡演、学習指導要領・教育課程の改訂による、太神三味線音楽（義太夫節）を初めとする邦楽の鑑賞の導入等があると思いますが、何よりも、現代の青少年には、大人によく見られるような、自国の文化についての誤った劣等感・優越感も無ければ、伝統芸能に対する誤解もありません。全く知らないのです。大人の中には、伝統芸能の存在は知っているながら、変な先入観を抱き例えば、三味線は卑俗な花柳界の低俗な楽器だ、と甚だ勝手な独断を下だす人がいます。（こういう人ほど、所謂受験勉強・受験術の詰込みとピアノとの重さでこのことを押潰しているのです。）

文楽公演や・本協会の女流月例公演（毎月二十日、二十一日。上野広小路の本牧亭）を聴きに来る若人が年々増えています。青少年の浄瑠璃研究団体、「義太夫教室」（昭和二十三年発足）は、第十三期と第二十三期（三十五年と四十五年、共に安保改訂騒動の年）との間は極めて低調でしたが、四十六年度か

らは初期にも優る盛況で、毎年数十名の青少年が受講しています。（入門講習初中上級、五月から二月月づつ。）その若い人々の意見や、前述の各種の機会に意識的に（或いは先生の指示によりしふしふ）初めて邦楽を聴いた児童・生徒の感想文は、個人差はありますが、平均すれば、大人が予想しているよりは遙かに深い感銘、強い感動を述べています。日本語の解らぬ外国人の中にすら、日本の芸術を深く理解する人がいるのですから、これは不思議ではありません。「血は水よりも濃い」のです。偏食や食わず嫌いが良からうはずは無く、甘やかしや放任と共に、こどもの人格・人権を尊重しない結果になります。民族の優れた文化遺産は、是非、次の世代を担うこともたちに伝えたいものです。

とにかく、青少年諸君に浄瑠璃を聴いて貰いたいと思います。演目は学校の御指定でよいのですが、従来希望の多かったのは、国語の教科書に多く載っている「新口村」と音楽科鑑賞指定曲の木遣り「柳」との二本立てのようであります。

連絡先 104東京都中央区銀座六の一八の二
社団法人 義太夫協会（新橋演舞場別館）

TEL 五四一・五四七一（月・金午後）

（申込順に実施。協会幹部出演。費用実費。）

御希望の先生方は、月例公演に御招待）
なお、協会の正会員・賛助会員の方々は、御自分のお子さん、お孫さんの学校および父母の会に、是非おすすめてください。

歌舞伎と

浄るりの

研究会

竹本 弥乃太夫

かねて表題の研究会を持ちたいと思つて、一口に義太夫といつても広範囲に亘り、それぞれの分野でそれなりの研究はなされて、何んといつても、文学音楽両面に秀れている義太夫節のことだから、その研究といつたら大変なことである。併し我々が身近に出来る範囲で、それが些細な事柄でも勉強してみようと思つた。それには、毎回一つのテーマを選んで、会員がそれに就いて、いろいろな角度から調べる、いわば、ゼミナール形式の研究会で、それにより、今まで知らなかった知識も新しく吸収出来る、又技芸の向上や、鑑賞の手引等にも何んらかのプラスになること、等がねらいである。例えば、歌舞伎と音楽の相違ということについて言えば、場割り、演出、役名、型、そして曲節等数え上げると際限がない。義太夫の語り方、三味線の弾き方にもそれぞれの口伝や心得があるだろうし、史実と劇の比較や作品の紹介に至る凡ゆる面を会員が追究して行けば、その成果大なるものと期待したい。更に又その作品について、会員のみによる非公開ながら

の実技を試みれば、一層意義深いと感ばつたことも考へる。………というわけで、第一回を旧臘十四日、折から義士討入の日に因んで、テーマを、『仮名手本忠臣蔵』として谷中区民館で開催した。私事に至つて恐縮だが、会員は、現在教室出身者有志で形成している『みやび会』会員と、現役三味線研修生諸氏である。勿論これらに賛同される向きは、今後も研究会を随時回を重ねたいと思つているので、誰でも参加して、いい御意見を聞かして頂きたい。

猶、当日の研究課題『忠臣蔵』は、あまりにもポピュラーなもので、前記の内容について、会員が熱心に調べられて、その一つ一つを発表されたが、或る会員は、現在の戸塚山中は喧嘩と塵埃の坩堝で、一刻も静止してられないと、激しく車の往来する国道を写真に収めて来た。到底へ石原道で足は痛みはせぬかえと、三段目お軽勘平道行の夢はない……(笑)

五段目定九郎での有名な話だが、仲蔵という役者が、王子稲荷参詣の途、雨中にかけ出して来た雨宿りの浪人者の恰好にヒントを得て、夜具縞の衣裳を現在の形に変えたという。その王子稲荷へは、会員有志で史蹟めぐりで、はからずも参詣したところなので興が深かった。七段目お軽の延べ鏡のところ、へはどけかかりしお軽がかんざし……という文章は、或古老に聞いた話だが、ほどけかかりではなく、仏がかりが正しい、お軽が仏の形をするのであるという。八段目道行は、性教育

を戸無瀬が小浪にするのであるが、浄るりの文章はまことにきれいな事であることよ(笑)

ただ戸無瀬と小浪という役名は、作者の竹田出雲が、忠臣蔵以前に書いた戯曲に、姉妹で同名が使われているという、余程気に入った名前だったのだろうということである……と或る本で読んだ。又戸無瀬が継母ということも案外知らない。九段目は名文だが、小浪のさわりは自分の意志でなく、父本蔵の言葉で自分の身に置き変えてしゃべっているのが面白い。等々いろいろな意見があつて、それらの枚挙にいとまがない。曲節についても、大序の大オロシや大三重のことや、歌舞伎独特のメリヤスのこと、例えば五段目勘平の、木の葉メリ、単純にして情景やふんい気描写に大なる効果を上げている等の実技があつて、時間の経過も忘れた。なにしろ忠臣蔵は十一段の長丁場だから、それにまつわる話は豊富なので、寧ろ数回に分けたほうがよいかも知れないが、一とまづ第二回は、テーマを『妹背山婦女庭訓』ということに予定している。実技は、御殿の場を義太夫を入れて役々に分けて朗読にし、道行、恋の苧環を義太夫の掛合にしようと思つている。妹背山全般に關してよい意見を各自御用意下さい。時期は追而御知らせします。

小さき灯

義太夫教室第二十七期

桑原 須賀夫

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は「義太夫教室」その他に御尽力いただき誠に有難うございました。本年も御指導御鞭達のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年暮には、我ら二十七期生、諸先輩と共にささやかながら待望の発表会をもつことが出来ました。これも偏に協会関係者の御協力の賜と、改めて厚く御礼申し上げる次第です。何分、文字通りの初舞台ではあり、不備も多く御迷惑をおかけし恐縮に存じますが、他方また暖い励ましのお言葉も沢山頂戴致しまして、何よりも心強い限りでございます。

夢中の裡に会が終り、一日一日と日を経るにつれて我々の胸を去来致しますのは、ささやかでも未熟でも、何としてでもこれを守り続けていきたいという願ひに他なりません。たとえ多くの人々の目には触れずとも、幽かな小さき灯であつても、いや、むしろ小さき灯故にこれを消してはならぬという強い思いを禁じ得ないのであります。これは第一期生

以来の教室出身者全員の想いでありましよう。事実、会のと、何人もの先輩方からそうしたお言葉を承りましたし、重造師も常々、勉強会の必要を説いておられます。

ここに我々二十七期は堅く決意致しました。我らの小さき灯を守ろうと

これは一時の気まぐれや、正月の酒の上から



昨年暮のおさらい会風景

発したのでないことは申すまでもありません。我々の目的は、教室出身者と在籍者による発表会の定期化（年二回）にあります。さしあたり本年六月を当面の目標として計画をすすめて参ります。発表会運営委員は、以下七名、次の師匠のもとで個人稽古を続けております。

越道師 品川欣司・上杉桃子
 春華師 石川二三夫・政所利子
 弥乃太夫師 久恒和雄・伊秩真知子
 朝重師 桑原須賀夫

最後に、申すまでもないことながら、我々は非力であります。義太夫への愛情と情熱以外何も持ち合わせておりません。協会関係者各位の深い御理解と御助力を切に切にお願い申し上げます。

乙卯歳睦月

東横名韻会 学生大会

三月二十八日（金） 東横ホール

昨年の名韻会学生大会で、圧倒的迫力で注目をあびた義太夫教室が、今年も出演します。プログラムは、「三番夏」教室出身者で当日の出演を希望なさる方は、早めに事務局までお申し込み下さい。

義太夫教室発表会

日時 六月二十七日（金）五時半
 会場 第一証券ホール

只今、準備をすすめております。どうぞ、御声援下さいますよう――

協会の動き

(昭和四十九年)

昭和49年8月より
昭和50年1月まで

8月17日 義太夫協会定款一部変更、東京都教育庁より認可される。

8月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭

8月29日 義太夫教室27期 語り中級終了

8月30日 定款一部変更登記

9月10日 会報5号 編集会議 於事務局

9月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭

9月24日 ヤング討論会 於俳優協会稽古場

9月27日 若手女義座談会 於文明堂

10月14日 定例理事会。慈善公演・前会長故松太郎師追善会・75都民芸術フェスティバル・祖先祭等の立案他

於新小松

10月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭

10月23日 常務理事会(公演委員会) 慈善公演他の具体的な案を作成

於新小松

11月20日 女流義太夫公演会 於本牧亭

11月21日 前会長 故豊沢松太郎師を偲ぶ会。義太夫協会の運営に大きく貢献された前会長の七回忌にあたり、「寺小屋」「十種香」、松太郎師が発掘された「蝶の道行」、松太郎師作曲の「追悼の曲」を手向けに

演奏した。多数の御焼香を賜う。

於本牧亭

12月5日 義太夫教室27期、語り上級終了。

12月7日 第一回義太夫教室懇親発表会

二十七期生を中心に、教室出身でプロ入りした新人も含めて、賑かに発表会。酢屋・巡礼歌・浜松小屋・寺小屋・木遣・山名屋・袖萩祭文・十種香・尼ヶ崎の各段を、肩衣、見台つきで熱演。発表後、関係師匠との懇親会。於俳優協会稽古場(5頁参照)

12月10日

第四回心身障害児のための「慈善演奏会」、「揚屋」「酢屋」「道行吉野山」を女流総掛合にて演奏。

当日の寄附金をNHK厚生文化事業団に託す。於三越劇場

会報第五号「ヤング特集」発行。

12月20・21日 女流義太夫師走合同公演。吉例の「忠臣蔵通し」掛合を中心に総出演にて賑かに興行。

二日間とも大入り。於本牧亭

12月23日 義太夫教室27期 三味線組終了

12月24日 昭和49年度「祖先祭」11時半本堂

にて読経。12時墓参の後、懇談会。

会長より「お墓にお参りして嬉ぶ

だけでなく、義太夫を盛んにして

先祖に嬉んで頂かなければならな

い。49年には歌舞伎関係の多数の

入会があつて心強いが、更に全国

的な協会になつて欲しい。49年は、

協会の仕事に緒についた年、財政

的基礎が出来ていないので甚だ不

本意などところもあつたけれど、50

年には、竹本や文楽の後継者養成

等の有意義な仕事を協会で行える

ようになれば、財政的にも援助が

あるのではないか。50年は良い年

にしよう。」との挨拶(要旨)。

他に新入正会員(竹本素丸・野沢

松江)の披露を行う。

於両国回向院。

仕事おさめ

(昭和五十年)

12月27日

1月6日 仕事はじめ

1月20・21日 女流義太夫新春公演会

1月25日 於本牧亭

新春懇親会 於どん鍋

会報第六号発行

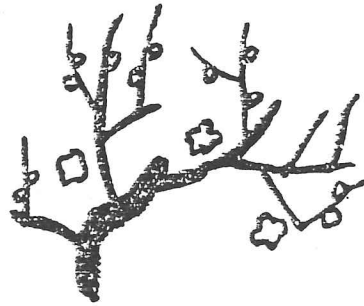
75年度協会会員名簿発行

1975 1.25

第6号

義太夫協会

催しもの



故野沢吉二郎師追善会

*二月二十三日(日)
*国立劇場小ホール

長唄を中心とした御子息の杵屋佐兵衛師主催の演奏会ですが、最後に義太夫が入ります。演目は、故吉二郎師の作曲で、在世中に日生劇場のこけら落として発表された「心中天網島 道行橋づくし」、義太夫教室の三味線組生徒が、竹本弥乃太夫師(当日は補導出演)のもとで、只今、真剣に稽古中です。

'75 都民芸術フェスティバル

第五回 邦楽演奏会

* 昭和五十年二月九日(日)
* 於 第一生命ホール
* 東京都助成による特別料金 七〇〇円

主催 邦楽連合会 (義太夫協会・清元協会・古曲会)
常磐津協会・長唄協会・日本三曲協会
後援 東京都

第一部 (十二時半開演)

一、一中節 式三番岩戸神楽
二、義太夫 関取千両噺

稲川内の段

- | | | |
|-----------------|----|-----|
| おとわ | 竹本 | 重之助 |
| 鉄ヶ獄 | 竹本 | 駒之助 |
| 呼出し | 竹本 | 春駒 |
| 大阪屋 | 竹本 | 素之助 |
| 三味線 | 鶴沢 | 路之助 |
| 胡弓 | 豊沢 | 三治 |
| 迎春賦 | 豊沢 | 公治 |
| 四、清元 忍逢春雪解(三千歳) | | |
| 五、常磐津 仮名手本忠臣蔵 | | |
| 六、三曲 初代高橋栄清作曲 | | |
| 梅の功 | | |
| 七、長唄 正治郎 連獅子 | | |
| (終演予定 四時) | | |

お問合せ、お申込みは事務局まで

第二部 (四時半開演)

一、義太夫 新版歌祭文
野崎村の段

- | | | |
|--------------------|----|-----|
| 久作 | 竹本 | 糸道三 |
| お光 | 竹本 | 越八 |
| お母 | 竹本 | 素八 |
| お染 | 竹本 | 春華 |
| 久松 | 竹本 | 朝重 |
| 三味線 | 豊鶴 | 仙廣 |
| ツレ弾 | 豊鶴 | 津賀昇 |
| 胡弓 | 豊沢 | 公純 |
| 二、荻江 深川入景 | | |
| 臥猫 | 豊沢 | 公治 |
| 三、長唄 山田検校作曲 小督曲 | | |
| 四、三曲 道行浮晴鷗(お染) | | |
| 五、清元 光崎検校作曲 五段砧 | | |
| 六、三曲 花舞台露の猿曳(うつぼ猿) | | |
| 七、常磐津 (終演予定 八時) | | |

誉太夫師の近況

去る一月四日、アメリカ、ロサンゼルスの高野山ホールで、「豊竹誉太夫師喜寿の祝」が開かれました。これは、二十二年前に渡米されてから、ずっと義太夫活動を続けてこられた同師の引退を兼ねて行われたもの。歌舞伎・文楽・義太夫関係者が渡米するたびに色々面倒を見てこられた誉太夫師にふさわしく当日は、日本人も外人も混つての賑やかな会となりました。協会からは、唯一人の愛弟子竹本越道師がはるばると出かけて応援、三味線に語りにと大活躍、協会からも生花をお祝いさせて頂きました。尚、誉太夫師は、今後は趣味として、気楽に義太夫を続ける御予定とか、どうぞいつまでもお元気で。

猿公師からの便り

新年おめでとうございます。病氣もすこしづつですが良い方向に向っております。皆様にくれぐれもよろしくお伝え下さいませ。

右のようなお便りをいただきました。すでに歩行練習にも入られたとか、一日も早い御回復をお祈りいたします。

協会よりお願い

毎号お願いしていることですが、皆様のお宅やお知合いの所に眠っている三味線や床本はないでしょうか。こわれているものでも結構なのです。協会の若い会員は、今にもこれそうなコマを使ったり、本を捜すのに古本屋を歩きまわったりして苦労しています。どうぞ皆様のおたのしみ御支援をおよせ下さいませようお願い申し上げます。

芸能人年金のおすすめ

年金というのは、将来の芸能生活を支える資本を今から用意しておくことです。更に、病氣やケガで芸能活動ができないときは、休業手当も支給されますので、安心して治療に専念することができます。

国民年金に入っている方も大丈夫です。国民年金は、国の作った公的年金、芸能人年金は全芸能界のために芸団協が作った私的年金制度ですから、もちろん両方に加入できるわけです。先日借しくも亡くなられた坂東三津五郎師も、「全芸能人の力を、福祉事業は恵みでも施してもない。自分たちの手で、自分たちの力で、出来るだけ多くの果実を得ようとするのだ。それにはお互が、努力するしか道がない」と芸能人年金への加入をすすめていらっしやいました。協会としても、お一人でも多く加入されるようすすめてまいります。お問合せは事務局まで――

訃報

- 鶴沢 勝助師 (正会員) 49年9月24日歿
- 賀集 益蔵氏 (特別会員) 49年11月5日歿
- 鶴沢 寛治師 (文楽協会) 49年8月20日歿
- 藤田 俊一氏 (三曲協会) 49年11月3日歿
- 池谷作太郎氏 (日本舞踊協会) 49年12月18日歿 (事務局長)
- 野沢松之輔師 (文楽協会) 50年1月13日歿
- 坂東三津五郎師 (芸団協 会長) 50年1月16日歿 (俳優協会 常任理事)

義太夫協会に特に関係の深かった七霊位の御冥福を只々お祈り申し上げます。

編集後記

新しい年をむかえて、協会では、後継者の養成を初めとして、会報の充実等やりたい事業が山ほどありますが、先立つものその他の関係でなかなか実行にうつせないております。早速、この二月に理事会を開いて五十年度の事業計画や予算案を練る予定ですが、どうぞ本年も皆様の暖いお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。